

平成 27 年度第 1 回図書館協議会議事録

1、日 時 平成 27 年 10 月 27 日 (火) 午前 10 時から正午まで

2、場 所 市民文化センター 1 階学習室

3、出席者

出席委員	井之浦 一子	家庭教育活動者 (公募委員)
	久保 明子	家庭教育活動者 (公募委員)
	新屋 広子	学識経験者 (市議会議員)
	高 欽 裕樹	学識経験者 (大阪教育大学准教授)
	寺西 孝栄	社会教育関係者 (図書館ボランティア)
	堂園 智子	社会教育関係者 (PTA 協議会)
	中野 勝次	社会教育関係者 (こども会連絡育成協議会)
	山本 真見	学識経験者 (市議会議員)
	吉見 静香	社会教育関係者 (社会教育委員)
欠席委員	藤本 守	学校教育関係者 (国分小学校校長) 公務のため欠席

事務局

教育部長	尾野 晋一
教育部次長兼図書館長	真野 繕意
国分図書館長	岩佐 昌史
柏原図書館主幹	山路 茂樹
柏原図書館主査	児玉 太津男

4、案 件

- (1) 平成 26 年度 図書館事業執行状況について
- (2) 平成 27 年度 上半期事業報告について
- (3) その他

5、議事の内容

司 会

定刻になりましたので、ただ今から平成 27 年度柏原市図書館協議会を開会いたします。皆様方には、本日、公私なにかとお忙しいところ当協議会にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。本日の司会をいたします、柏原図書館主幹の山路でございます。よろしく願いいたします。尚、職員につきましてはクールビズの関係でノーネクタイ、上着なしで出席しております。ご了承のほどよろしくお願い申し上げます。

まず、会議に入ります前に、皆様方には事前をお願いをしておりますとおり、本日の会議は柏原市まちづくり基本条例第 15 条により「会議の公開」が規定されておりますので、本日の協議会を公開することといたしますのでよろしくお願い申し上げます。

それでは、開会に先立ち尾野教育部長の方から開会のあいさつを申し述べさせていただきます。

<尾野部長挨拶>

司 会

<任命書の交付>

<出席委員の紹介>

<資料の確認>

それでは、議題に入ります前に、本日の会議の成立状況でございますが、柏原市図書館協議会条例第5条第2項に委員総数の1/2以上の出席が成立要件となっております。本日の出席者は委員10名中9名が出席されておりますので、協議会は成立しております。

それでは、まずはじめに役員を選出についてを議題とさせていただきたいと思っております。本協議会の会長並び副会長の選出をお願いしたいと思っておりますが、どのようにさせていただきますでしょうか。

委 員

「事務局に一任」の声あり。

司 会

ありがとうございました。

ただいま司会者一任との声がありましたので、会長は大阪教育大学の高鉦先生に、また、副会長は本日は公務のため欠席されておりますが国分小学校校長の藤本先生をお願いしたいと思います。

異議がなければ、拍手をもってご承認をお願いいたします。

(拍手)

ありがとうございました。それでは新会長からご挨拶をいただきます。

<会長挨拶>

司 会

ありがとうございました。

それでは、協議会条例第5条第1項により会長が議長をつかさどることになっておりますので、これからは高鉦会長に議事進行をお願いいたします。

よろしく申し上げます。

会 長

それでは、次第に添って議事を進めます。

はじめに、「平成26年度図書館事業執行状況について」を事務局から説明願います。

事務局

それでは、平成26年度事業執行状況を報告させていただきます。先に「平成26年度柏原市の図書館」をご覧になられていると思いますので、かいつまんで報告します。

はじめに、18ページ④最近5年間の利用状況の推移より報告させていただきます。

平成26年度の1日当たりの利用者数は339人、1日当たりの貸出冊数は1,239冊、開館日数は350

日です。貸出人数は 11 万 8,665 人、図書館全体の貸出冊数は 43 万 3,790 冊になります。過去 5 年間で貸出人数や貸出冊数は全体的には伸びている状況でございます。

次に 21 ページ⑦予約受付件数です。受取館別予約件数ですが、柏原館は 1 万 1,324 件、国分図書館は 1 万 2,145 件、合計で 2 万 3,469 件になります。予約件数は、順調に伸びており、窓口の予約は減っておりますが、WEB 予約は伸びており、インターネットやスマートフォンの普及により利用者の利便性がよくなりその結果が表れていると思われまます。

次に、24 ページ⑩相互貸借内訳です。府立図書館、国立図書館を除く下の小計ですが、借受冊数 1,241 冊、貸出冊数 697 冊となっており、前年度より借受冊数は 116 件減っており、貸出冊数 197 件増えています。

次に 28 ページ各種行事を説明します。

柏原図書館の行事人数は 1,578 人、国分図書館は 1,627 人計 3,205 人の参加がありました。また平成 26 年度は国分図書館 10 周年の記念行事を行い、図書館フェスタ「おはなしのもり」、人形劇「六さんがやってくる!」「読書ノートをつくろう」等を行い、たくさんの人に来ていただき大変盛況でありました。またこの行事を参考とし新しい企画も含め、市民の皆様にご集っていただける催しを続けてまいりたいと考えております。

次に 30 ページの説明をさせていただきます。地域ボランティアとの協働事業ですが、柏原図書館が合計 440 人、国分図書館が合計 289 人計 729 人の参加がありました。次の 32、33 ページですが、柏原図書館、国分図書館の展示内容になっており、季節に応じて様々なテーマの本や話題の本等を展示しております。

次の 34、35 ページは行事の風景写真です。行事、展示等は、ツイッターやフェイスブックを活用し、広報活動を行い、利用者の行事参加、来館を促しております。

次の 36 ページ、「9. ブックスタート・レファレンス等状況」ですが、ブックスタートはボランティアさんとの協働事業で、年間 24 回行い 527 人に来ていただいております。レファレンス受付件数は 351 となっております。

これで平成 26 年度の事業執行状況の報告を終わらせていただきます。

会 長

ありがとうございました。

それでは、ただいまの「平成 26 年度図書館事業執行状況について」について何かご質問はございませんか？見る限り、資料の内の「出張ブックトーク」や「ぬいぐるみのおとまり会」の 26 年度図書館事業執行状況に関わる資料と思いますが、説明がなかったと思いますが。

事務局

それは後程説明させていただきます。

会 長

わかりました。何かございますか？

委 員

27 ページですが、実績の指数で図書購入費、900 万円くらいで提示されています。個人的に調べたところ国分ができていない当初 1 館の時もう少しあったり、国分図書館ができた時に少し予算が増えたりしましたが、その後は 900 万あたりで提示されてます。他の地域はどのようなのか？

事務局

中部 9 市の状況を説明させていただきます。河内長野市の図書購入費の予算が平成 27 年度 22,443 千円でございます。

会 長

図書館の数もお願いします。

事務局

河内長野市は 1 館です。東大阪市 3 館で、5,373 万円です。松原市は 1 館と 7 分室で 1,650 万円です。八尾市は 3 館で 6,380 万 2,000 円、大阪狭山市は 1 館で 1,147 万円、富田林市は 2 館で 1,870 万円、藤井寺市は 1 館で 800 万円、羽曳野市は 3 館で 1,770 万円、中部 9 市から離れますが高石市が 1 館で 1,169 万 7,000 円。柏原市 2 館で 900 万ということになっております。以上、中部 9 市と高石市の平成 27 年度の図書購入費でございます。

委 員

ありがとうございます。やはり柏原市は少ないなと正直思います。

会長さんのご挨拶の中にもありましたが、読書の時間は減っていないと、買わないけど読みたいという思いがある。その中でこの予算はどうかと思います。学校の教育現場でもそうですが、読書の部分で費用が取れない状況にある。人間構築の意味で根本に読書が必要というのがあると思いますので予算が取れるよう頑張っておられるとは思いますが、なんとかならないかと思います。

事務局

図書購入費の増額を要望しておりますが、なかなか財政状況が厳しい中、認めてもらうのは難しい状況です。図書購入費が少ない分は、それ以外の部分で他市との連携を深めて、相互貸借するとか、あるいは学校現場の図書費も少ないですが、図書館と学校の連携を深め不足分を補って読書力の向上に努めたいと思っております。予算の増額は難しいと認識はしておりますが、今後も、引き続き要望はしていきたいと思っております。

委 員

何とか張ってください。少ない予算の中でいろんな行事をされていて、私もいくつか参加しましたが、参加のみなさん喜んでおられて、職員の皆さんの頑張りが見られると思っております。図書館が、予算の獲得も含めて、充実していけるようお願いします。

会 長

それに絡まって発言をさせていただきます。他市との連携により、柏原の利用者に対して資料の提供を充実していくということですが、おっしゃることはわかりますが、他の図書館は高いサービスしてる中で、柏原の図書館は低いサービスをしていて、それで連携と言うこととなると、それは柏原の図書館は他の図書館に寄生しているということになるわけです。連携とは、同程度のサービスをしているときに成り立つものであって、柏原はある種借りっぱなしで貸さないとなると連携の中からはじかれる可能性すらあります。

事務局

人気のある作家の図書、話題の図書等、最低限必要なものについては、両館それぞれ確保しておりますが、確かに高価本、専門書、等は、おっしゃるとおり甘えがあるかもしれませんが、図書館としてジレンマを感じながら相互貸借を活用しており、会長の仰るとおり予算を確保してサービスの向上を進めなくてはいけないと認識はしています。

会 長

要望していただいているということなので、あとは要望先がどう判断するかということなので、そこは図書館がどうこうできる問題ではないところがおそらくあって、それが教育委員会なのか財政当局なのか、僕にはわからないところですが、そちらへの理解を得る努力をぜひ続けていただきたい。

事務局

たしかに担当部局が財政当局に対して同じことを言います。図書購入費は命の綱だと要望しますが、どことも同じような説明をしますので、優先順位がどうなるのかということ。ただ決算委員会になるのか、議員の皆さんの要望もありますので、それで財政が認識することも必要だと思いますので、そういう意味でも委員の皆さまにもお願いしたいと思います。

よろしく申し上げます。

会長

それに関わって、国分図書館ができた時、資料費は増えましたか、それとも横ばいですか？

事務局

平成 16 年度に、6,500 万円いただきました。

会 長

国分図書館ができる前は？

事務局

国分図書館ができる以前は 1,000 万円。平成 16 年度に国分図書館開館に伴い、6,500 万円いただき、平成 17 年度から 21 年度までは 2 館で 1,000 万円。それが平成 22 年度に 900 万円になり、平成 23 年度は地域活性化交付金 400 万円をいただき 900 万+400 万の 1,300 万円。それ以後は平成 24、25、26 年

度は 900 万円です。

会 長

そうすると、図書館が作られたときはほとんど資料費が付いたが、レギュラーというか定常の資料費は変わってないということですね。1館当たりになると半分になったということですね。やはり、それは図書館としては、かなり厳しくなるだろうなど。館が増えているのだから、利用者が当然、どちらにもいらっしやるので、双方に揃えないといけないのに、資料費は半分半分ということになると、図書館としては厳しくなるだろうと。

1館当たり 450 万円と言う数字は、全国平均から見てもかなり低いわけですし、それから考えても、同じことになりますが、予算を要望していただき、できるかぎり資料費に使っていただくということをお願いしたいと思います。

他に何かございますか？

事務局

先ほど会長が述べられました、相互貸借については、昨年比で、他館借用が減り他館への貸出しが増えました。借受が 116 冊減りまして貸出しは 197 冊増えました。新刊本の借用については3カ月間貸していただけないところも、6カ月のところもあります。繰り返し図書費増額については要望していきたいと思えます。

会 長

ありがとうございます。

借受超過には違いないが、確かに改善はしているということですね。

何かありますでしょうか？

少し、僕から。

27 ページの実績の指数というところで、資料費が低いということはあえて言わないことにいたしますが、その資料費の中でも、Pの値市民一人当たりの貸出冊数、専門用語で貸出密度と言いますが、6.04 と言うことは全国平均と同じか少し高いと思えます。5.5 くらいだと思うので、その意味で柏原市の住民の方々はとてもよく本を読む方々なんだろう、低い資料費だが利用されているということだから、せめて全国平均並みの資料費が投入されたら、おそらくサービスの利用はものすごい勢いで上がるのではと思います。その意味でもったいない。柏原市の住民の方の文化的向上、教養の育成に図書館は役立っていくだろうという中で、機会を損失しているのは、とてももったいないと思えます。せめて全国平均並みの資料費が出せばいいなと思えます。中部9市の資料費は全国平均よりかなり多いです。3館で6380万円などの数字がありました。このあたりの標準に合わせるのには苦しいとしても、せめて全国平均くらいはと思うところでもあります。貸し出しについてはもったいないというところでは。

それ以外について、36 ページのレファレンスについてですが、月によって変動がある。例えば柏原図書館は8月や11月は3件だが、3月には26件ということで変動が大きいなと思うところでは。

変動が大きいのが悪いことではないのですが、1月2月3月あたりが多いのですが、何か原因と言うか、要因と言うか、あるいはこの時期に寄せられるレファレンス質問の傾向とかあれば。

事務局

その月は夏休みの宿題関係のレファレンスが多かったです。

会 長

国分図書館は7、8、9月が多いですね。

事務局

柏原図書館については7、8、9月は申し訳ないのですが、業務で手いっぱい、1日1,200~1,400人來られますので、書き漏れがあります。1、2、3月はその反省も込めて、レファレンスを記載いたしました。

図書館は座って本を貸し出して、返却するだけの仕事と思われる人が多いのですが、レファレンスはカウンター業務とおなじく図書館の重要な業務と考えます。どのような回答をしたか、どういう資料を利用して、どういう本を紹介したかを作っていますが、なかなかいきたりませんでした。質問だけは一覧表になってますが、回答も付け加えてきちんとしたものを作成していきたいと思います。

会 長

ぜひともやっていただきたいと思う一方で、それで労働超過になるのなら、質問にきちっと回答するほうが先で、それを記録するのは後かなと、優先順位を下げてもいいかなと思います。

会 長

レファレンスサービスは文部科学省の古いデータで申し訳ないが、2006年「これからの図書館像」の中では「地域の課題解決に資する図書館」という中でレファレンスサービスが強く意識されているところがあります。もちろん資料の提供、貸し出しも重要ですが、資料の中からどの図書、どの資料にどういう情報が乗っているかを案内するのも図書館として必要なサービスとなっていくと思うので、それを記録に付けるけるかどうかはおいておいて、サービスとして充実していただければと思います。

他に特に問題なければ、次第を次に進めてよろしいでしょうか？

「平成27年度図書館事業報告について」事務局に説明をお願いします。

事務局

それでは、私からは資料No.1の「平成27年度主要事業計画」、平成27年も半年過ぎておりますが、主要事業計画をお話しさせていただきます。

平成27年度において、柏原市立図書館は、生涯学習の文化の拠点として幼児から高齢者までのあらゆる人々に対し、資料や情報を提供し、市民に密着した図書館運営を図ります。

重要目標として7つあります。

① 幼児児童サービスの充実

幼児・児童の人間形成において豊かな読書経験の重要性に鑑み、読書を通して楽しみながら学習週間、知的好奇心の育成ができるような幼児・児童向けの図書の充実を図ります。また行事については、従来

より継続してきた行事、ボランティアとの共催行事の他に、親子で参加できる図書館独自の行事も数多く企画し、利用者の参加を促し、加えてブックスタート(ボランティアとの共催により4カ月児検診のうちに絵本を配布し読み聞かせを行い、絵本を通して親子のふれあい、心の成長を目的とする)事業を継続して行います。

② ヤングアダルトサービスの充実

ヤングアダルトを青少年中期にあたる小学校高学年・中学生・高校生を中心とした世代と捉え、収集する資料も現在若い人に支持されている作家、作品に重点をおき、またイベントも催しヤングアダルト層の利用を図ります。

③ 一般利用者・高齢者サービスの充実

利用者のニーズに沿った資料(教養書・文芸書・日常の問題解決に役立つ参考図書・雑誌等)を幅広く収集し、提供します。また高齢者がより快適に利用できるよう、大活字本や録音図書の充実を図り、より多くの方々の図書館利用の促進に努め、市民に憩いの場所を提供できるよう努めていきます。

④ 全域サービス

図書館から遠隔の地域にお住まいの皆さまに移動図書館による図書館サービスを行い、館内と同等のサービスの充実にはかります。(病院貸出も含む)

⑤ 学校との連携

学校との連携を充実させるため団体貸出を積極的に働きかけ、司書と先生と一緒に本を選書することにより、協力関係をより一層深め、また意見交換を行うため図書館において講習会を開催していきます。

また平成26年度より実施している小学校へ出張ブックトーク事業をより積極的に推進していきます。

⑥ 柏原コーナーの充実

柏原市に関する歴史文献等を積極的に収集し、市民や他の地域の人々に柏原市をより深く周知してもらえるよう柏原コーナーの充実を図っていきます。

⑦ 情報発信の充実

平成26年6月1日より柏原市立図書館のホームページにSNSのリンクを設け、広域に情報発信を行うためツイッター及びフェイスブックを開始しました。今後もより多くの情報を発信し、市民とのネットワークを形成し、図書館への来館、行事等への市民の参加を促し、幅広い柔軟なサービスを提供していきます。

以上で平成27年度の主要事業計画の説明を終わらせていただきます。

会 長

事業計画としてNo.1を見ていただきましたが他の資料の説明は？

事務局

説明させていただきます。新規事業ですが、資料No.2です。

「平成27年度かしわらとしょかんおはなし会」を4月に結成し、月1回の割合で手遊び、絵本の読み聞かせ、紙芝居、工作などいろんな催し物を行っております。10月4日までで、児童が199人、一般が176人、計375名の参加がありました。この中で、8月9日の夏祭り、縁日ゲームはたくさんの方が来ていただき、お化けくじ、ロケット投げ、ヨーヨーすくい、こむぎこねんど等の行事を行い、230名の参加

がありました。これは継続して行ってまいりたいと考えております。

次のページがおはなし会のようすです。

国分図書館のおはなし会は以前からありましたが、柏原図書館も人数が少ないなか、嘱託職員や臨時職員と一緒に4月より会を立ち上げ大変好評いただいております。

No.3について。これは初めての試みで移動図書館を小学校へ巡回しサービスを行いました。青谷地区の児童の利用が学校の下校時間と重なり、寄り道ができないということで、利用が少なくなりました。校長先生と相談して、帰宅時間にここはバスの便が1便、2便ありまして、その待ち時間がだいたい50分から60分、まず地元の生徒に利用していただき、その次に1便の子どもたち、そして2便の子どもたちを対象にサービスをしてみました。これは大変好評でありまして、今までで合計1,213冊、利用人数308人、返却が800冊。大変喜んでいただきまして、今後の移動図書館のあり方の参考になるかと、学校に巡回するのは一般の方が入れないというのがありますが、小学生の帰宅する前に読書の時間を作ってもらえないかとお願ひもしてありますが、これは1回目ですが、これをはじめとして移動図書館サービスのあり方について考えていきたいと思っています。

資料No.2、No.3が新規事業です。

資料No.4は、27年度上半期の行事でございます。

柏原が1,253人参加していただき、ボランティアさんとの共同イベントで263人、合計1,516人の方に参加していただいております。次のページは国分図書館です。国分図書館は722人の参加がありまして、ボランティアさんとの共同イベントにおきましては195人、合計917人の参加がありました。いずれも継続していく事業や新しく考えて行った行事等工夫して行っております。

資料No.5は下半期の事業計画でございます。10月から来年の3月までの柏原図書館、国分図書館の事業計画を載せております。

追加の参考資料ですが、まず「ぬいぐるみのおとまり会」。これが今年で3年目になりまして、大変好評で新聞にも取り上げられてます。3枚目に黄色のマーカーでしるしをしておりますが、「大阪府柏原市立国分図書館で昨年から、ぬいぐるみを預かった夜にツイッターでその様子を「実況中継」するようにした。自宅で家族でも楽しめる」と好評だ。」こういう記事が新聞に載りました。

次は出張ブックトークのようすでございます。2枚目にはブックトークとはこういうものであるとの説明があります。これも大変好評で、ブックトークをした翌日にその本の続きを読みたいとか、関連した本を紹介しますので、利用が増えたと聞いております。玉手小学校の1年生から6年生を対象に行いました。これも継続していきたいと思っています。11月にも東小学校からも依頼を受けておりますが、今スケジュールの関係で考えているところですが、できるだけ実施したいと考えています。

会 長

ありがとうございました。それでは、なにかご意見、ご質問等ありませんでしょうか？

委 員

出張ブックトークのお話をお聞きしました。玉手小学校ということでしたが、今のところはそこだけで他の学校は？

事務局

次が東小学校となっています。

委員

これは、学校からの依頼があって行われるということですね。他の学校からは依頼がないからしないのですか？

事務局

依頼がないからではなく、人員がそろってないので、徐々に進めていきたいと思います。どうしても2人抜けて1日の作業なので、図書館は週1回の休みで運営している関係上、どうしてもローテーションが合わない場合がありますが、前向きに実施の方向で考えていきたいと思っております。

委員

全国的にもブックトークをはじめビブリオバトルであったり、さまざまな学校での取り組みがあるので、機会を作ってほしいなと思います。専任の司書さんがおやりになりましたので、図書館には司書さんがそろっているので、そういう事業をこれからもどんどん増やしてほしいと思います。

会長

他には？

委員

堅上小学校のひまわり号の話で、少しわからなかったのですが、子どもたちがバスで帰りますよね。その待っている時間にこれをするということですか？

事務局

そうです。授業が終わって、徒歩で帰る地元子ども達、バス1便の子ども達、バス2便の子ども達。各20分間くらいありますので、順番に計1時間、ひまわり号利用してもらっています。

委員

子どもさんだけで、大人は入れないんですね。

事務局

学校の警備の関係で入れてもらえません。

実際にこの地域は大人の人利用が少なかったもので、それなら子ども中心に変えようと、以前は下校中で寄り道ができないので、それなら学校の中に入ろうということになり、実現しました。

委員

大人の方が入れないということで、もしよかったら、予約してもらって、子どもたちに持って帰って

もらうなどしたらよいかと思います。

事務局

お迎えの方は入ってもらえてますが、なかなか学校というところは警備の関係上、いろいろ制約がありますので、考えてまいりたいと思います

委員

幼稚園に手があればですが、幼稚園には蔵書冊数が少ないのでお子さんと一緒に選んでいただくことができたら、本の内容を変えないといけないので大変だとは思いますが、楽しいのかなと思います。幼稚園も小学校もお借りした本を図書室において、破損したり失くしたりしたら困るということで、渋られます。学校図書館指導員として本を借りて図書室に来る子どもたちに見せてあげたいと思うのですが、それがなかなかできない。読み聞かせした本を置いておいて、後で見てほしいと思うのですが、汚したり失くしたりしたらいけないので、ちょっとということがあるのです。

事務局

それは、先生がですか。コスト代が高いといっても、本は使って傷むものですが、柔軟に対応していきたいと思いますが。コーティングしていますので、表紙の対応年数はあると思います。団体貸出も行っておりますので、柔軟に対応させていただきます。

委員

学校図書館先生動員としては年間2万円の図書費はあるのですが、こちらからこれ買ってと言えない。学校図書館支援指導員として選べるのはその2万円。学校にない本で読みたいと思うのを図書館から借りて、それを置いておきたいと思うんです。

事務局

支援員さんの額は2万円で各学校は同じですか？

委員

同じです。幼稚園は違います。

事務局

その辺りは指導課になると思うので、その辺り確認させていただきます。

委員

規定があれば、借りやすく、置きやすくなると思います。

事務局

予算を広げてほしいということで。

委 員

いいえ、図書館の本を学校に置くことを躊躇されるので、それをやりやすい形にしてほしいということです。

事務局

最近では団体貸出が増えています。学校を通して、図書館に言っていただけたら団体貸出は利用していただけます。堅上小学校ではクラスに対してですが、学年ごとに貸出しています。同じような形なので、学校に言っていただけたら貸出できます。

委 員

相談支援指導員としてでなく学校図書館として？

事務局

とりあえず、声をかけていただいたら柔軟に対応できますので、支援員の方から声をかけてもらった方がいいと思います。団体貸出は増えてきてます。先生によって差があります。熱心な先生方であれば助言はさせていただきますが、自分達で選書されています。また一緒に選んでくださいと1週間前にファクスがきて、こんな感じでと言われ、こちらで用意し、1週間後にまた来館しますと言われました。その時に足りないからと不足分選書されましたが、もう少し熱心に選んでほしいと。基本的には団体貸出はあくまでも要望をいただくから我々が団体貸し出ししましょうというものなので、それを先生方がご理解していただかないといけません。こちらは協力はしますが、受け入れ側がその姿勢を見せなくてはいけない。それであれば、そうですねということになりますが、持ってこいと言われたら、ちょっと待ってください、先生方は児童にどのような本を見せたいのか、それを明確にいただけたらと思います。いろいろ問題もありますが、子供達のため学校と連携をより深め実りあるものにしたいと思います。

事務局

学校の図書館の中で研究部会があり、本のディスプレイの方法や子どもと本を結びつける方法や修繕の方法を図書館から教えていただきたいと11月中に開催する予定です。学校との連携は我々は続けていきたいと思って、充実もさせたいと思っています。学校と図書館のあり方を今度の研究部会で団体貸し出しについてもルール化して、そうすれば配本の部分でも生まれるところもあると思うので、その辺りは関係していきたいと考えています。

会 長

柏原市内に小学校、中学校は何校ありますか？

事務局

桜塚小中学校を入れて、17校あります。桜塚を除いて、小学校10校、中学校6校あります。

会 長

文部科学省が学校図書館図書整備5か年計画というものをやっていて、前からやっているのですが、一番新しいものは平成24年からで、年間200億円のお金を出して学校図書館の資料を充実させるというものです。年間200億を以前計算したところでは小学校平均68万8,000円、中学校116万2,000円で、それが17校あるというのであれば、1,700万円くらいのお金が学校図書館図書整備費として柏原市全体に付いていないとおかしい。

事務局

それは大阪府を通じてくるのですか？

会 長

地方交付税交付金として各市に対して直接交付されているはずですが、それをどう使うかは各市に任されていることは、よく存じておりますが、ただ一応国側としてはそのお金は学校図書館図書整備として使ってくださいと積算して出している。平均で小学校が18学級で68万8,000円、中学校が15学級で116万2,000円ですから、学校の規模によって変動はしますが、17校あるとなると国から降りてくるはずの学校図書館図書整備費の方が、公立図書館の図書整備費よりも高いということになっているはずです。もちろん学校は多いので、細かくなって1校当たり100万円もないくらいとは思いますが、それでも、学校図書館が図書館に連携を求めてくるのは構わないけれども、学校図書館自身が国から出てるはずのお金をよこせという主張を議会とかに対してするべきところがあるんじゃないかなと思うところがあります。

事務局

学校が実際に学校の運営費の中で図書館の蔵書購入費に充てているというのは、資料が手元にありませんが。細かく出ていたかどうか、歳出の中では一括になっているかもしれません。また帰って確認させていただきます。

会 長

国としては毎年200億円のお金を全国学校図書館図書整備費としている。内訳としては6割ぐらいが更新の費用、図書を廃棄して新しいのを入れる。残り4割が増加のための費用。あとは新聞を学校図書館に少なくとも1紙入れるためのお金とか、学校司書を入れるためのお金が、地方交付税交付金として地方自治体に対して配布されているはずですが。

事務局

その交付金を活用してかどうかわかりませんが、学校現場に今年大阪府を通じて1人学校司書ということで補助金をいただきましたので、1名、柏原中学校、柏原東小学校、柏原小学校の3校に学校司書が週2、2、1日の割合で配置されるよう活用しています。期間は、1年間ですが。

会 長

徐々に改善していく方向にいけばいいと思います。

全国学校図書館協議会(全国 SLA)の調査があって、全国平均を出すと国から出ているお金は少ないというところがあって、昔々の国会での質問での言葉を使うと、学校図書館の資料費にと思って出したお金がおやじの一升瓶に化けたという、そんなことが 1996 年ころに言われているんです。学校図書館の資料費に関しては、国としては充実させようという方向で動いているんだが、地方自治体がそのお金をそのように使っていない現状があります。これは、図書館協議会で議論すべき内容ではないのですが。

学校図書館に関してはそういうところがあるので、図書館との連携というものも、もちろん進めていただけたらと思いますが、一方、学校図書館が学校図書館として充実を図るということに対して情報提供をしていただければと学校図書館も独自に動くかとも思います。

他に何かございますか？大丈夫でしょうか。

それでは少しだけ。

ヤングアダルトに対してこれから力を入れていきたいと事業計画に入れていただきましたし、その表れとして学校図書館に対しての移動図書館の運行であるとか、ぬいぐるみのおとまり会とかブックトークとかいろんな事業をたくさんやっていただいているのはわかります。ただ、「柏原市の図書館」の 13 ページをみると、いわゆるヤングアダルト世代、13～18 歳がそこに当たると思うのですが、その利用が減っている。実利用者人数もそうです。純粋にまずは子どもが減っているので、だからこの数字が減っているのはある程度は仕方がないのですが、柏原市の子どもの数の推移と比べて登録者人数とか実利用者人数の推移がどうであるのかというデータをお持ちだったら教えてもらっていいですか？

事務局

柏原市の人口と年齢の刻みの中でのこれらの比較は今すぐにはわかりません。今後、分析をしていきたいと思います。

会 長

もちろん人口動態は変わっているのですが、その中でヤングアダルト世代、子どもに対する図書館サービスは大事と思うので、今の数字だけ見ると減っているようにしか見えない。数字の出し方としてはもったいないというか、適切でない気がします。柏原市に住んでいる子どもの数が減っていたら、登録者数が減っているのは当然です。

事務局

それは例えば、年齢層で他の階層との比較、パーセンテージでどれくらいの率でヤングアダルト以外の階層での登録率、それとヤングアダルトとの比率、その比較そのものですか。要はやはり高齢者は登録者率が高いとか。

会 長

それも大きな分析の比較になると思います。全体としては利用者は増えていて、どこが増えているかと見ると、明らかに 60 歳以上が増えている。19 歳 50 歳のところも増えていますが、割合からいうと 60 歳以上がかなり高く増えている。多分これは純粋に人口動態が上に上がっているということなんだろう

などは思うんですけども、ヤングアダルト世代に対するサービスというものをこれから行っていくとすると、その効果をどう図るかというところで、この形で出してしまうと、せっかくサービスしているのに減ってるんじゃないかと見えてしまうので、もちろん生データとしてこの数字は出す必要はありますが、柏原市の実際の人口との比較というか、例えば13歳から18歳までの何パーセントが登録していると、例えば成人の世代と比べてそれはどうなんだ、あるいは前年、前々年と比べて割合が増えているのか、減っているのかという数字の出し方をさせていただく方が、よりサービスを適切に理解できる数字になるのではないかと思います。今すぐに出していただきたいというわけではありません。

事務局

フェイスブックにつきまして、リーチ数ですね、アカウントをもっている人、それが1カ月間で調べてみたんですが、年齢別の割合で13～24歳は5パーセント、25～34歳が36パーセント、35～44歳が30パーセント、45～54歳が20パーセント、55歳以上は8パーセント。その中でもフェイスブックを見る、図書館のWEBを見るというのは、やはりヤングアダルト世代は5パーセントと低いということです。

会長

おそらく数字としてはその通りだと思いますが、たぶんそのヤングアダルト世代は親のフェイスブックを通じて見ている可能性が高いので、それをそのまま低いという風には。例えば、今回のぬいぐるみのおとまり会の資料とか見せてもらいましたけれど、ツイッターで見せると驚いたり喜んだりしているわけですね。この見ているのは親のアカウントで見ているわけですね。その意味でヤングアダルト世代が、数字が少ないからと言って少ないかどうかというのは、もう少し深く考える必要があるかなと思うところです。

事務局

ただ、ヤングアダルト世代を図書館に呼びよせる参加型サービスや情報発信についての具体的な構想なのですが、ヤングアダルト世代がクラブ活動や塾の合間をみて図書館に行ってみたいと思わせる魅力あるサービスを考えていきたいと思っております。仮名といたしまして、ヤングアダルト通信、ヤングアダルトニュース等、ヤングアダルト層の資料紹介、行事案内のリーフレット作成し、市内の中学校、高校に配布し来館を促す。それから今年の夏もありましたポップ作成、漫画等の作品発表の場を提供する。それから中学生の職業体験の折に自分の好きな作品を紹介してもらうことによるヤングアダルト層に人気のある図書を把握することができ、口コミによる影響を強く受ける世代に通じたPR広報につなげていきたいと考えております。

会長

いろんな事業をやっているということで、それがヤングアダルト世代の利用増につながったらいなと思うところです。繰り返しになりますが、全体の人数がそもそも減っているのだから、人数だけを見てこれは減っていると判断するのはあまり適切ではないと思うところでもあります。全体の中で何パーセントというデータの見方をした方が、より実態を正確に把握できるのではないかと思います。ど

うしても、特にヤングアダルト以下の若い世代はどんどん減っていますので、その中でももちろん減っていったとしてもそこに対するサービスは絶対必要なんですけれども、例えば何らかのヤングアダルト向けのイベントをやって人数が横ばいだったら、おそらくそれは成功しているんであろうと、つまり全体が減っているわけですから。そういう社会全体の人口動態がどう動いているかというのも含めたサービスの投機型の判断が必要です。逆もそうで、お年寄りに対して、お年よりは数が増えていますから、お年寄りの数が増えているからと言って図書館のサービスが十分お年寄りに届いていると考えてよいかと言うと、それは留保が必要。それは単に母数が増えているから利用が増えているかもしれない。数字の見方ということだと思います。ヤングアダルト世代、子どもたちに向けてサービスを提供するというのは非常にたくさんのことやっていたらいいと思いますので、その効果をどう計るかを考えた時に単純に何人来たというその人数で計るのはちょっと違うかなと思ったところです。

他にありますか？

委員

ツイッターとフェイスブックって言われましたが、ヤングアダルト世代はあまり利用していないのではと思います。フェイスブックに関しては13歳以上しか使えないというところがあるので、もしラインが使えるのであればラインでの広報というのも考えられたらいかがでしょうか？

ラインに登録してもらって、ピーと鳴ってパッと見たら図書館の情報が来ると、ちょっと覗きに行ってみようかなと、できるのであればそのほうが広まりやすいかなと思います。

事務局

その辺については、我々はまだよくわからないので、今後の検討課題ということにさせていただきたいと思います。

会長

他に何かございますか？

委員

ラインと言われまして、なるほどと思いました。子どもも使っていますので。

さきほど学校の帰りやクラブ帰りに気軽に立ち寄れる図書館をと言われましたが、学校の帰りに寄ることは学校は大丈夫なのでしょうか？

委員

それについて10年前の図書館協議会の時に言わせてもらったら、やはり学校は一旦家に帰って親御さんと一緒にないと校区から出たらあかんとされるんです。もし、事故かなんかあった場合、柏原市内でも案外不審者が多くて、明るくても不審者が出て、女の子が声をかけられたりしているからね。

事務局

確かに来館してほしいですけど、リスクを背負ってまで来てもらうのもっていうのがあるんですけども。

確かに行き帰りにしてもいい場所ですし、時間帯も6時です。タイミングを逃してしまうと、それもまたリスクが高い。職員も子どもさんをずっと見ているわけではないので、中で利用者同士で何かあつてとか、痛しかゆしとか、おっしゃるように来てもらいたいんだけど、これから日没が早くなる、6時でも真っ暗なんです。そういうのも気になるところで、なかなか学校から直接来るというのは、ほとんど来ないですね。以前は学校から近いところの生徒さんは直接くる子もいたんですが、今はほとんどいないですね。

会 長

社会の変化で、子どもが校区から出られないという環境ができつつあるのであれば、図書館の側から校区の方へ出ていくということがきっと必要になってくるんであろうかと、これは今すぐということではなくて、長期的なビジョンとしてということですが、社会の変化に図書館もやはり対応していかななくてはいけないので。

不審者に対して十分なセキュリティを作らなくてはいけないというのは、それはそれで子どもを守るのに大切なことです。このような環境の中で図書館が何ができるかということも長期的なビジョンで考えなくてはならないだろうということかと思えます。

他に何かございませんでしょうか？

特になければ、全般にわたって今回の図書館協議会の事務局からの報告に対して、ご意見、ご提案、ご質問等ございますでしょうか？

委 員

今後、利用者をもっと増やすということで、何か取り組みや考え、方向性などはありますか？

事務局

申しあげましたように、図書館行事を増やしたい。新刊書を増やして新しい本を紹介したいのですが、なかなか予算に限りがありますので。何とか工夫して来館してもらおうと、新しい図書館を発見してもらい、子どもたちの集まりの場を増やしていくためには、毎年行事をやっていく中でこの行事をもう一度精査して継続するものは継続して、新しい行事を増やしていき、なんとか頑張っていきたい。今以上に努力していこうと思っております。

委 員

文化発信の拠点として頑張ってください。

会 長

他にありませんでしょうか？

本日の案件はすべて終了しましたので、これをもちまして平成27年度の柏原市図書館協議会を終了いたします。

委員各位におかれましては、公私何かとご多忙にも関わりませぬ、ご出席賜り厚くお礼申し上げます。

それでは、進行を事務局にお返ししたいと思います。よろしく申し上げます。

事務局

高鍬会長におかれましては、長時間にわたりまして議事進行をしていただきましてありがとうございました。また、各委員におかれましては、貴重なご意見をいただきありがとうございました。今後とも職員一同、市民が利用しやすい図書館を構築していく所存でありますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

なお、最後になりますが、本日の会議録につきましては、後日各委員に持ち回りさせていただいたうえで、図書館のホームページに掲載させていただきますことをご了承賜りますようお願い申し上げ、閉会とさせていただきます。

本日はありがとうございました。